

船舶事故調査報告書

令和元年9月4日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）
委員 田村 兼吉
委員 岡本 満喜子

事故種類	乗揚
発生日時	平成31年3月12日 14時00分ごろ
発生場所	沖縄県うるま市平安座島東方沖 金武中城港浜比嘉口灯標から真方位350° 1,500m付近 (概位 北緯26° 20.7′ 東経127° 59.6′)
事故の概要	プレジャーボートPRIMA VERA・Nは、航行中、浅所に乗り揚げた。 PRIMA VERA・Nは、船底外板に破口等を生じた。
事故調査の経過	平成31年3月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート PRIMA VERA・N、10トン 260-26268 沖縄、株式会社トーヨーテクノ 9.90m (Lr) × 3.86m × 1.56m、FRP ディーゼル機関2基、338.4kW (合計)、平成2年4月
乗組員等に関する情報	船長 男性 68歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成28年10月27日 免許証交付日 平成28年10月27日 (令和3年10月26日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	船底外板に破口及び擦過傷
気象・海象	気象：天気 快晴、風向 北西、風速 約3.8m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、友人（以下「同乗者」という。）1人を乗せ、遊覧の目的で、平成31年3月12日11時00分ごろ沖縄県与那原町与那原マリーナを出航した。 船長及び同乗者は、うるま市伊計島（以下、島及び半島については、「うるま市」を省略する。）及び宮城島を遊覧した後、与勝半島と平安座島を結ぶ全長約4.7kmの道路（以下「海中道路」という。）を見る計画としていた。 本船は、約16ノット(kn)の速力（対地速力、以下同じ。）で東方へ向けて航行し、津堅島の東側を通過して伊計島へ向けて航行を続

	<p>けた。</p> <p>船長は、13時25分ごろ、伊計島南東方沖において、海上が穏やかで快晴でもあり、周囲に他船がいなかったため、機関を止めて漂泊した後、GPSプロッターで水深が約20mであることを確認した。</p> <p>船長は、13時45分ごろ、海中道路に向かうこととし、発進前にGPSプロッターを見たとき、水深が約20mあったので浅所がないと思い、機関を始動して平安座島東方沖に向けて真方位約228°の針路及び約16knの速力とし、船首方を目視で確認しながら操船した。</p> <p>本船は、平安座島東方沖に向けて南西進中、船長が、前方に白波が立っているのを認め、白波を避けようと約10knの速力として航行を続けたところ、14時00分ごろ、平安座島東方沖の浅所に乗り揚げた。</p> <p>船長は、海上保安庁へ通報し、16時20分ごろ巡視艇により同乗者と共に救助された。</p> <p>本船は、3月17日17時00分ごろ船長が手配した引船により本事故発生場所から引き降ろされ、えい航されてうるま市平安座漁港に陸揚げされた。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図、写真1 本船の船底部損傷状況 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、本船の喫水について、出航前及び海中道路に向かう際、測っていなかった。</p> <p>船長は、伊計島南東方沖で漂泊してGPSプロッターを見た後、平安座島東方沖に向けて航行中、GPSプロッターを活用していなかった。</p> <p>船長は、沖縄島海域での航行経験が年に10回程度あったが、伊計島沖から平安座島沖の海域を航行するのは本事故時が初めてであり、同海域の水路情報を事前に確認していなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、伊計島南東方沖において南西進中、船長が、同沖を初めて航行する際、発進前にGPSプロッターで見たものの、水深が約20mあって浅所がないと思い、前方を目視で確認しながら航行を続けたことから、船首方の白波を見て速力を減じたものの、平安座島東方沖の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が伊計島南東方沖において南西進中、船長が、同沖を初めて航行する際、発進前にGPSプロッターで見たものの、水深が約20mあって浅所がないと思い、前方を目視で確認しながら航行</p>

	<p>を続けていたため、船首方の白波を見て速力を減じたものの、平安座島東方沖の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて航行する海域は、海図、水路図誌等を用いて事前に水路調査を行い、航行可能な海域を把握しておくこと。 ・ 航行中は、GPSプロッターを活用して船位の確認を行うとともに、浅所の状況や水深を確認すること。

付図1 事故発生経過概略図

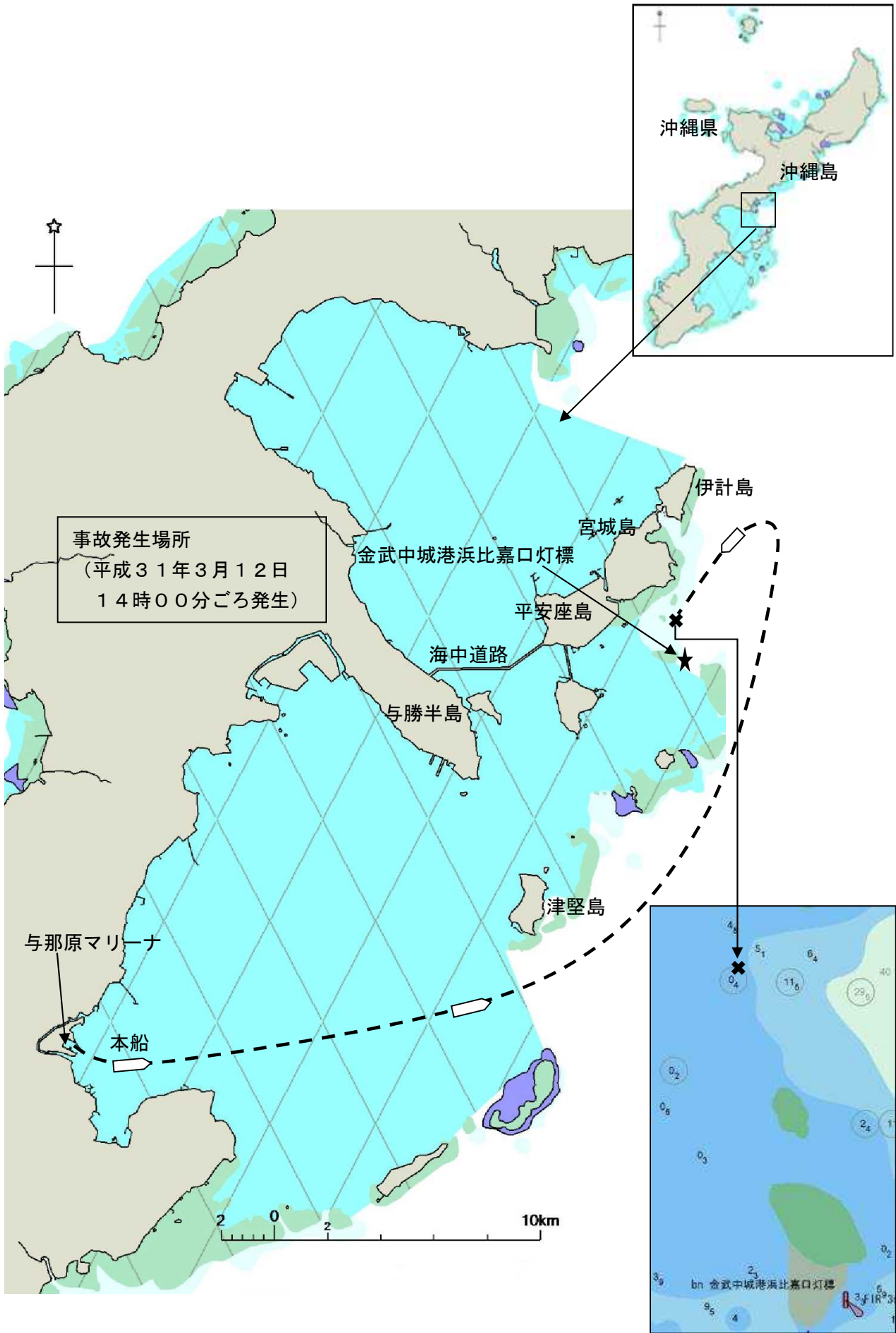


写真1 本船の船底部損傷状況



船首から船尾までの擦過傷



船底中央部の破口